

感覚をひらく——新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業

エデュケーショナル・スタディズ 04

Opening the Senses—Project to Promote Innovative Art Appreciation Programs

Educational Studies 04

チョウの軌跡——長谷川三郎のイリュージョン

Locus of a Butterfly: HASEGAWA Saburo's Illusion

京都国立近代美術館4階コレクション・ギャラリー

2023年10月5日(木) — 12月17日(日)

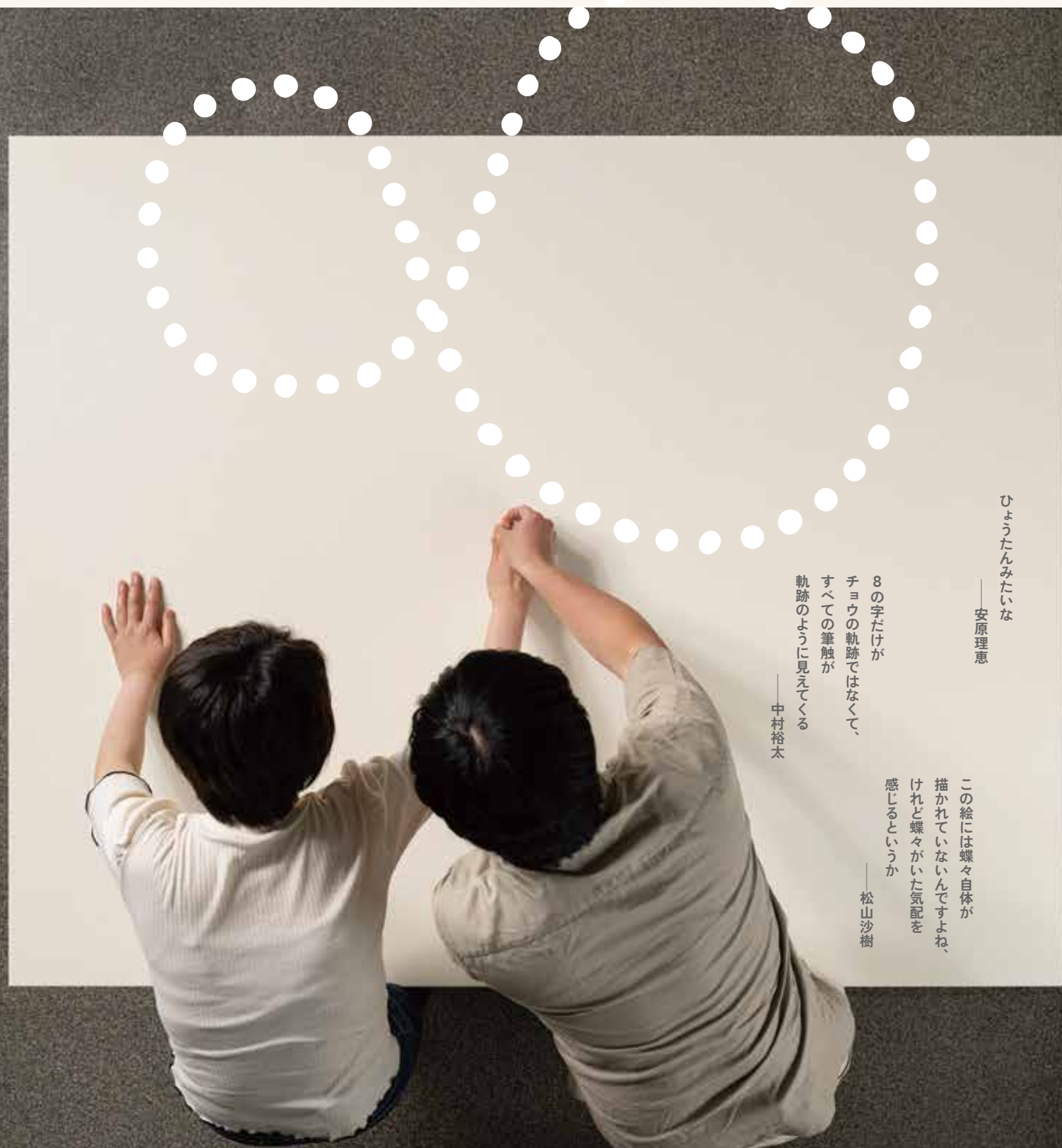
休館日：月曜日 ※ただし10月9日(月・祝)は開館し10日(火)は休館

開館時間：10時—18時 ※ただし10月6日、12月15日を除く金曜日は20時まで開館(入館は閉館の30分前まで)

主催：京都国立近代美術館

特別協力：甲南学園長谷川三郎記念ギャラリー

〈キャンパスに長谷川三郎の筆致をなぞる〉 撮影 | 表恒匡



ひょうたんみたいな

——安原理恵

8の字だけが
チョウの軌跡ではなくて、
すべての筆触が
軌跡のように見えてくる

——中村裕太

この絵には蝶々自体が
描かれていないんですよね、
けれど蝶々がいた気配を
感じるといっか

——松山沙樹

チョウの軌跡——長谷川三郎のイリュージョン

Locus of a Butterfly: HASEGAWA Saburo's Illusion

1937年、長谷川三郎は《蝶の軌跡》という抽象絵画を描きました。画面は8の字や楕円、点々や荒い筆致だけで構成されているため、どこにチョウの動いた軌跡が描かれているのかわかりません。ただ、画面のなかで何かが動いていた気配だけが漂ってきます。こうした抽象絵画から受ける目に見えない気配のような感覚は、どのように伝え合うことができるのでしょうか。

本プロジェクト*1では、中村裕太 (A)、安原理恵 (B)、松山沙樹 (C) の3人が、この作品と同じ大きさのキャンパスの上で、長谷川の筆致をなぞりながら言葉を交わし、図録や美術雑誌などの文献資料を読み合わせ、さらに動物行動学からチョウの飛ぶ道を検証していきました。そして、粘土やロープ、小豆などの素材を組み合わせることで、触れることで想像力が刺激される《蝶の軌跡》の触図*2を作り出していきました。

展覧会では、3人の会話や行動をもとに《蝶の軌跡》にまつわる長谷川の思索を押し量りながら制作した14種の触図を展示空間に設えます。会場を巡りながら、触図を見て、聴いて、触れることで抽象絵画の新たな鑑賞方法を探っていきます。



ABCコレクション・データベース Vol.3

長谷川三郎《蝶の軌跡》のイリュージョン

長谷川三郎《蝶の軌跡》を言葉、文献資料、チョウの行動、触図からひも解いたウェブサイト。

www.momak.go.jp/senses/abc/hasegawa/

*1 京都国立近代美術館では、「みる」ことを中心としてきた美術鑑賞のあり方を問い直し、「さわる」、「まく」などの感覚を使うことで誰もが作品に親しみ、その新たな魅力を発見・共有していく「感覚をひろく」事業を行っています。2020年度からは作家 (Artist)、視覚障害のある方 (Blind)、学芸員 (Curator) がそれぞれの専門性や感性を生かして協働し、所蔵作品の新たな鑑賞プログラムを開発する「ABCプロジェクト」に取り組んでいます。

*2 触図とは、作品の構図や色合いなどを触覚情報に変換・翻訳して表した図。

長谷川三郎 HASEGAWA Saburo

1906年山口県下関市生まれ。1924年甲南高等学校在学中、信濃橋洋画研究所に通い小出楯重に師事。1929年東京帝国大学文学部を卒業後、1932年までアメリカとヨーロッパを游学。1937年村井正誠、瑛九らと「自由美術家協会」を結成。第1回展には《蝶の軌跡》を含む14点を出品。同年にはビエト・モンドリアンやハンス・アルプなど欧米の抽象芸術を紹介した『アブストラクトアート』を刊行。戦後は、イサム・ノグチらと親交し、日本文化の紹介に努めるとともに、書、水墨、木版、拓本などを発表。1953年吉原治良、瀧口修造らと『日本アブストラクト・アート・クラブ』を設立、同年、「抽象と幻想」展 (国立近代美術館、東京) にてパネルを構成。1954年渡米後、講演や展覧を行う。1957年サンフランシスコにて没。

中村裕太 NAKAMURA Yuta

1983年東京生まれ、京都在住。2011年京都精華大学博士後期課程修了。博士 (芸術)。京都精華大学芸術学部准教授。〈民俗と建築にまつわる工芸〉という視点から陶磁器、タイルなどの学術研究と作品制作を行なう。近年の展示・プロジェクトに「第17回イスタンブール・ビエンナーレ」 (バリン・ハン、2022年)、「眼で聴き、耳で見る | 中村裕太が手さぐる河井寛次郎」 (京都国立近代美術館、2022年)、「万物資生 | 中村裕太は、資生堂と を調査する」 (資生堂ギャラリー、2022年)、「ツボノノナカハナナダロナ?」 (京都国立近代美術館、2020年)、「in number, new world / 四海の数」 (声屋市立美術博物館、2019年)。著書に『アウト・オブ・民藝』 (共著、誠光社、2019年)。
nakamurayuta.jp



令和5年度文化庁
Innovate MUSEUM 事業

関連イベント

● ギャラリートーク 10月14日 (土) 16時~17時

ABCのメンバーと本展のデザインチーム (D) が展示のみどころやプロジェクトの裏側を語り合います。

● トークセッション 11月5日 (日) 14時~17時

ゲスト: 広瀬浩二郎 (国立民族学博物館教授)
抽象絵画をどう「さわる」のか、会場で触図に触れながら

その意義や可能性について話し合います。

詳細・その他のイベントについてはウェブサイトをご確認ください。



お問合せ

京都国立近代美術館

〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町

TEL: 075 761 4111

<https://www.momak.go.jp/senses>

観覧料

一般 430円 (220円) 大学生 130円 (70円)

* () 内は20名以上の団体料金、および夜間割引料金 (金曜午後6時以降)

* 高校生以下、18歳未満および65歳以上、心身に障がいのある方と

その付添者1名は無料 (入館の際に証明できるものをご提示ください)

交通案内

● 京都市バス「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車すぐ、「岡崎公園 ロームシアター京都・みやこめっせ前」

下車徒歩約5分、「東山二条・岡崎公園口」下車徒歩約10分 ● 地下鉄東西線「東山駅」下車徒歩約10分